

風水害から身を守る準備と行動

令和元年台風15号、19号、令和3年熱海土砂災害など、近年台風などによる大雨・暴風の被害が各地で発生しています。台風や大雨は発生や規模を事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも抑えるためにも、事前の備えを十分に行っておくことが大切です。

日ごろの備え

- ハザードマップを活用し、土砂災害や洪水、高潮など自宅の災害の危険性を確認しましょう。**各ハザードマップで確認**
- 高台や垂直避難施設など近くの避難場所を事前に決めておきましょう。**P.4・P.22～25参照**
- 避難する際の必要最低限の持出品を用意しておきましょう。**P.5で確認**
- マイ・タイムラインを作成しましょう。**P.14・15で確認**

避難の考えかた

避難とは「難」を「避」けることであり、**避難場所に行くことだけが避難行動ではありません**。安全な場所にある親戚や知人宅も避難先としておくなど、事前に避難場所を検討しましょう。

また、避難は自らの判断で行動することが原則です。避難指示が出されていなくても「自らの命は自らで守る」という考え方のもと、**危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう**。

気象情報・警戒レベルに応じた避難行動の確認

避難情報は、災害が発生する危険度に応じて、5段階の「警戒レベル」を付して町から発令されます。「警戒レベル3 高齢者等避難」が発令されたら、避難に時間のかかる高齢者等は危険な場所からの避難を開始し「警戒レベル4 避難指示」が発令されたら、危険な場所から全員避難してください。避難情報などは防災行政無線、防災メールなどで発信しています。**P.26参照**

避難のタイミングが生死を分ける!

「**避難指示 (警戒レベル4)**」が発令されたら、危険な場所から**全員避難**

警戒レベル	避難情報等
1	早期注意情報 (気象庁が発表)
2	大雨注意報・洪水注意報・氾濫注意報 (気象庁が発表)
3	高齢者等避難 (町が発令) 避難に時間がかかる高齢者や障がいのある方、避難を支援する方などは危険な場所から安全な場所へ避難。 また、土砂災害の危険がある区域や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住いの方も、準備を整え、自発的に避難。 (警戒レベル相当情報：大雨警報、洪水警報、氾濫警戒情報)
4	避難指示 (町が発令) 対象地域の方は全員速やかに危険な場所から避難。 (警戒レベル相当情報：土砂災害警戒情報、氾濫危険情報、顕著な大雨に関する情報 (線状降水帯))
警戒レベル4までに必ず避難!!	
5	緊急安全確保 (町が発令) すでに災害が発生しているか、又は災害が発生直前であったりして、すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。 避難までに時間がないときは、その時にできる最善の避難行動をしましょう。 (警戒レベル相当情報：大雨特別警報、氾濫発生情報)

※町は、雨や土砂災害の情報 (警戒レベル相当情報) のほか、地域の状況などを踏まえて総合的に判断し、避難情報を発令します。

町が発令する避難情報は、警戒レベル相当情報と必ずしも一致しません。

※緊急安全確保は、地域の状況に応じて発令される情報であり、必ず発令されるものではありません。

現在の防災情報の入手方法

国土交通省
川の防災情報



洪水情報を確認!

神奈川県
雨量水位情報



森戸川、下山川の水位を確認!

神奈川県
土砂災害情報
ポータル



土砂災害が気になった時に確認!

気象庁
キキクル
(危険度分布)



危険が迫っている場所を確認!